

ブック村だより

本学コレクション紹介(16)

マルサス『人口論』第5版, 1817年	森岡 邦泰 (1)
心に残る1冊の本	初谷 勇 (2)
ぶっくす・なう	(4)
『始祖鳥記』	谷岡 一郎
『ワイルダーならどうする？ ービリー・ワイルダーとキャメロン・クロウの対話』	塩田 眞典
『いのちの米』	佐和 良作
『わたし8歳 カカオ畑で働きつづけて ー児童労働者とよばれる2億1800万人の子どもたち』	下山 晃
新学生スタッフ登場!	(6)
OPAC (検索用パソコン) を使いこなそう!	(7)
インフォメーション・開館案内	(8)



本学コレクション紹介(16) マルサス『人口論』第5版, 1817年

フランス革命が起こった時、この世界史的な大事件を目の当たりにして、イギリス言論界は沸騰し、賛否両論が渦巻いた。その時、保守派の論客として彗星のごとく現れたのがマルサスであった。マルサスは『人口論』でもって、フランス革命シンパの主張する平等主義を批判し、不平等を擁護した。『人口論』初版の書名にはゴドウィン、コンドルセの名が示されており、これら進歩主義者の思想が主な標的だったことが分かる。しかしそれから20年ほどがたち、情勢が変わった。もはやフランス革命は過去のものとなった。マル

サスも大学で経済学を講じるようになっていた。しかしその時新たな進歩主義者として登場してきたのが、ユートピア社会主義者ともいわれるロバート・オーエンである。新たな危険思想の勃興を見て、マルサスは第5版でオーエン批判を展開した。「現在この種の(平等論の)復活の傾向があるために……私はこのような評言をする気になったのである」と。第5版の変更点は他にもあるが、保守主義者としてのマルサスは健在だったのである。

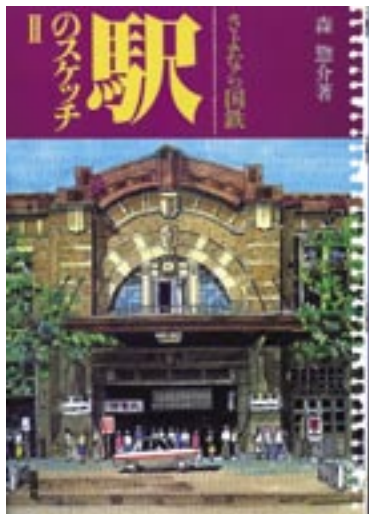
(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

駅前から — 画文集との出会い

総合経営学部教授 初谷 勇



(1984.10.刊)



(1987.5.刊)

大阪市中央区に釣鐘町という町名がある。寛永11（1634）年、徳川三代将軍家光が大坂下向の折、大坂三郷（北組、南組、天満組）の地子銀（地租）を永代免除した仁政に報恩感謝の意を表し、大坂町人が釣鐘を铸造して時報鐘とした釣鐘屋敷跡に由来する。明治3（1870）年、屋敷が撤去され、釣鐘は大正末期に大阪府庁屋上に移設・保存されていたが、篤志の市内企業D社とK氏、地元有志の尽力により、S社所有の釣鐘屋敷跡地に建立された新たな鐘楼へ、昭和60（1985）年6月10日の時の記念日、115年振りに盛大なパレードで里帰りを果たした。以来、日に三度、町中に時を告げる鐘の音が響いている。

時報鐘の里帰り支援とともに、「大阪文化の発展のために」とD社が別途寄せた多額の寄附金を第1号として、85年4月、寄附金を継続的に受け入れる大阪府文化振興基金が創設された。その後、府も元本を積み増して基金は漸次造成され、

運用利子を活用した多彩な文化施策・事業が展開されていくのだが、発足当初は金利水準の高い頃とはいえ運用果実も僅かだった。しかし、「第1回の基金活用事業は、小さくとも将来への布石となる事業を」との機運に、梅棹忠夫、磯田一郎、司馬遼太郎、下河辺淳、田辺聖子、原清、山村雄一の7氏で構成される基金運営委員会の議に付されることとなった。

談論風発、実に和やかな会議だったが、やがて司馬先生がおもむろに、お住まい近くの散歩道でもある駅前の風景をユーモアを交えて評され、温和な語り口で『街の顔』のこれからのありようを府民みずから考えていただいてはどうか。大阪の駅前像をテーマに文章と絵図をセットで求めるコンクールを全国公募で実施しては。」と投げかけ、一同膝を打つ風情で賛意が寄せられた。当時この基金の担当を命ぜられ、文化振興の御旗と委員の顔触れに、どんな案に収れんするかと気負っ

てその場に臨んでいた筆者は、この提案に意表を衝かれる思いがした記憶がある。しかし、その後、提案の事業化に着手し、JR西日本や私鉄5社に協力依頼に回り、狭小な府域に実に450を超える鉄道駅のひしめくことを知り、実地に多くの駅前姿を自分の目で確かめ歩くうち、駅に着眼された提案の含意と、言外に込められた時代と文化への思いを五感で悟ることとなった。

事業の細部を詰めるため、関係するいろいろな業界や実務家、研究者の助言を傾聴して回り、駅と駅前にまつわる資料を渉猟する中で、この画文集『駅のスケッチ』とめぐり会った。15年以上にわたり五千余に上る国鉄の駅を北から南まで丹念に取材して描かれた快作である。著者は、森惣介氏。東京赤坂生まれ、旧仙台工専（現東北大）出身の元国鉄技術者で、当時、建築事務所の仕事の傍ら東京理科大で建築設計製図や絵画などの教鞭も取っておられた。路線別に編集された四季折々の駅と街、点景に描かれた老若男女の人びとの表情を練っていくと、国鉄解体、分割・民営化の中、旧国鉄への愛惜とともに新生JRの確かな未来を共に祈らずにはおられない。「ぜひこの著者にもご意見をいただこう」と思い定め、早速都内の事務所を訪ね、近傍で夜半まで親しくお話をうかがう機会を得た。本題もさることながら、国鉄時代に手がけられた上野駅や原宿駅など多数の駅の設計談義、スケッチ旅行の旅路の挿話と、話は尽きなかった。同氏には後日、コンクール事業のプレイベントとして開催した駅をテーマとするシンポジウムにも出演いただいたほか、『駅のスケッチII』の刊行後もあれこれとお世話になった。

2年がかりのコンクールには力作が集まり、二つ返事で審査委員を引き受けていただいた手塚治虫、田中一光、大久保昌一、上田篤など審査委員の先生方をはじめ、数多くの出会いとご厚意に恵まれ、忘れ難い仕事の一つとなった。

国内の駅を2巻にまとめた森氏はその後、調査を兼ねて海外の駅へも筆を伸ばされ、毎年戴く賀状も中東や南欧など各地のスケッチで彩られた。

12年が経ち、2000年の初め、重篤なご容態にあるとご家族からうかがい、同年夏、その訃報に接した。奥様から頂いたお便りに、「人の世は名利、長短にあらず、世を辞して後、たまさかえにしありし人の心根につかまなりとも浮かぶを得れば幸いこれすぐるはなし（森惣介画集より）」との引用が、眩きように小さな字で添えられていた。『駅のスケッチ・海外編』は幻に終わったが、天界の駅頭で、行き交う人びとと語らいながらペンを走らせておられる姿を想像する。

府はその後、「文化の振興なくして都市や経済の発展はない」とのスローガンの下、88年度からの10年を「大阪文化創造の10年」と名づけ、同年度策定の『大阪文化振興ビジョン』を指針として、文化をもって世界に貢献する「文化首都大阪」の実現を目指す文化振興策を展開していく。坂を上る足取りも、なお暫くは軽やかな時代だった。

「創造の10年」からさらに10年が経ち、今年2008年、大阪は、府民の選択と信託を受けた改革と新たなビジョンをめぐって議論の渦中にある。とりわけ文化政策の帰趨が注目を集めている。大幅に見直しが図られる分野がある一方、歴史的まちなみや自然など魅力的な資源を発掘し、磨き、輝かせ、内外へ発信する「大阪ミュージアム構想」も打ち出された。ふるさと納税制度により、寄附者が同構想と文化振興基金など7つの基金の計8つの選択肢から目的を選ぶ仕組みが採られ、趣旨に賛同した寄附も相次いでいる。

秋天の下、年に一度御堂筋を闊歩するも良し、夕闇にライトアップで浮かび上がる水都のたたずまいや寺内町を愛でるも良し、個々の地域資源を核として、一つひとつの街の顔を際立たせる。内外の篤志を仰ぎ、民と自治体の力で可視性の高い手応えのある循環システムが培われれば、新たな「大阪方式」として評価される日も来ることだろう。

かつて司馬先生が活写された二つの駅前空間を歩きながら、この街の文化のかたちを思いをめぐらせている。

『始祖鳥記』

(小学館文庫, 2002.12)
飯嶋 和一 著

漢字が多く、人名も多く出るため、とっかかりで投げ出す人もいるかもしれない。しかし最初の50ページをクリアできれば、あとは一気に読み。そんな「難しいけどおもしろい本」の作者代表は飯嶋和一だ。この作者は、知る人ぞ知る、現在の司馬遼太郎。歴史を扱わせたら天下一品、並ぶ者は今の日本社会に見当たらない。私の心の中の直木賞作家である。

飯嶋和一は綿密な取材と下準備を行うためか、これまでに出版された本は本書を含めて6冊しかない。その中でイチオシは、この『始祖鳥記』。天災、人災での人々の心がすさむ江戸天明記、空を飛ぶことに命をかけた“鳥人”こと幸吉を主人公としつつも、話は当時の世相を赤裸々に描き出す。お

上の悪政に立ち上がる幸吉の生きざまこそ、この物語の主眼と考えてよい。いろいろな人間がからみあい、史実をもとに、とてつもなくおもしろい話が展開する。本書で飯嶋和一ファンになった人は、



『雷電本記』か『黄金旅風』にチャレンジしてみしてほしい。ただし最近出版された『出星前夜』に手を出すのはやめられよ。なぜなら『出星前夜』は、『黄金旅風』の続編と位置づけられる作品だからだ。個人の好みを言えば、この『黄金旅風』と『出星前夜』の連作が、最も読みごたえがあった。

とりあえず、『始祖鳥記』を読んでみられよ。きっと新しい世界が広がるはず。ただしたっぷり時間がある時に読み始めること。

(学長 谷岡 一郎)

『ワイルダーならどうする？』

ビリー・ワイルダーと
キャメロン・クロウの対話』

(キネマ旬報社, 2001.1)

キャメロン・クロウ 著、宮本 高晴 訳

ビリー・ワイルダーといえば大人の恋愛コメディで知られる往年のハリウッド映画の名監督、その彼にインタビューを試みた本書がたんなるゴシップや撮影裏話に終始せず知的な読み物になりえたのは、ひとえに聞き手キャメロン・クロウの質問力によるものだ。ワイルダーは映画創造の現場の秘密をユーモラスに開示してくれる。一例のみ紹介しておく。

映画『アパートの鍵貸します』、これは自分の部屋を情事場として上司に貸し出す出世主義にとり憑かれたサラリーマンの情けないお話。聞き手はジャック・レモン扮する主人公の部屋の普通なら見落としてしまう細部にこだわり、壁にかかっている絵について問い質す。こういった絵は主

人公が上司に部屋を明け渡したとき暇つぶしに入った美術館で買った複製画さ、ただしフレームに画鋏で止めてあるんだよ、とワイルダー。そうか、額に入れて掛けろよ、とってくれる友が居ないんですね、と聞き手。



ここでは画鋏によって主人公のわびしい人生が透視される仕掛けになっている。映画の細部に無駄はない。

シナリオライター出身のワイルダーらしい機知に富んだ会話が楽しめる本書は、当然、映画愛好家にお勧めの書であるのだが、見方を変えると、ヒット商品開発のヒント満載の楽しい実用書としても読める。蛇足ながら。

(経済学部 教授 塩田 真典)

『いのちの米』

(毎日新聞社, 2008.6)
富樫 倫太郎 著

日本史を少しかじったことがあれば「享保の大飢饉」と呼ばれる米の大凶作があったことは知っているはずだ。大飢饉が起きた享保17年は1732年のことである。

主人公の米仲買人、能登屋吉左衛門は、寒村の出身で持ち前の度胸と才覚により、盛衰の激しい米問屋の世界で自らの運命を切り開いた人物である。

当時大阪の堂島では、「九州で竹の花が咲いた」といううわさがささやかれていた。吉左衛門は何か天変地異が起きるのではないかと考えた。ひょっとして麦の不作に続いて、米も凶作になるのではないかと直感したのである。

うわさだけで動くことは出来ない。そこで、豊作か凶作かを自分の目で確かめるために西国に出

かけて実地検分することにした。尾道で見たのは、「いなむし」(稲を食い荒らすすべての害虫の総称)の大発生であった。稲作は壊滅的な被害を受けていた。安芸でも「いなむし」の被害が深刻であった。長門、周防、備後、備中でも軒並み大きな被害を受けていた。四国や九州でも被害が出始めているということが分かった。

急遽大阪に戻った吉左衛門は、当時堂島で行われていた、「帳合米取引」と呼ばれる一種の先物取引で顧客から預かった資金や自己資金で買えるだけの米を買った。これ以上書くと興味を失う可能性があるのでこまめとする。なお、当時先物取引が行われていたのは世界で堂島だけである。
(経済学部 教授 佐和 良作)



『わたし8歳 カカオ畑で働きつけて—児童労働者とよばれる2億1800万人の子どもたち』

(合同出版, 2007.11)
特定非営利活動法人ACE
(岩附由香・白木朋子・水寄僚子) 著

夏休み、アルバイトに汗を流した学生諸君は多いことと思う。家計を助けるため、学費のため、留学費用の捻出、パソコンを買うため、旅行資金を積み立てるため、遊興のため、生まれてはじめてのデートのため、…理由は色々あるだろう。

ぼくはこの夏休み、著者の白木さんたちと一緒にインドに行ってきた。白木さんたちが企画した「インドで子どもたちに会って考える旅」というスタディ・ツアーに参加させてもらったのである。長年、世界の働く子どもたちの問題に取り組んでいる著者の皆さんの奮闘ぶりが十分感じ取られる、すこぶる、中身の「濃い旅」だった。

本書に登場する子どもたちが一日に手にするお金は、せいぜい、1ドル前後。日本で250円で売

られるチョコレートがあれば、原料のカカオを収穫した子どもたちには2円か3円しか支払われていないからである。

「女は一生の間に幾つかの過(あやまち)を犯す。それに対して男の犯す過ちはたったの二つである。言うことの全てと、なすこと全て、である」と言われる。世界の経済の仕組みは、大体においてヒゲのはえたおっさんたちが作りあげて来た。本書に描かれた2億人以上の子どもたちの実情を知れば、現在の世界のあり方が如何に異常なものかが良く判る。昨今、世界を豊かにする筈の金融市場で一瞬にしてフツ飛んだ金額は2700兆円であるという。大人たちの愚かさが、はっきりと見えてくる。

(総合経営学部 教授 下山 晃)



● ● ● ● ● 新学生スタッフ登場！ ● ● ● ● ●

今回は、入学して間もなく、図書館スタッフに登録して頂いた西川龍之介さん（経営学科1年）に、図書館に関していろいろ答えて頂きました。

初めて図書館に来た時の印象は？

— とても学校内にある図書館とは思いませんでした。

スタッフに登録頂いたきっかけは？

— より多くの本に出会うきっかけ作りをしたかったからです。

図書館では11月末頃に「選書ツアー」を予定していますが、それ以外でスタッフとしてやってみたい事はありますか？

— やれることならなんでもやります。

月にどのくらいの割合で本を読みますか？

— 5～6冊ですね。

お気に入りの分野は？

— エッセイです。

ケータイ小説は読みますか？

— 読みたくても、パケ放題にしてないので読めません。

図書館はどの位の頻度で利用していますか？

— 週4回くらいです。

書店には行きますか？行く場合は、どの位の頻度で行きますか？

— 書店には時間がないのであまり行きません（補足：普段は「自動車部」で活躍中です。また、授業の後には資格講座にも取り組まれています）

本はどの位の頻度で借りますか？

— 1ヶ月に5冊程度ですね。

雑誌はどの位の頻度で読みますか？

— 毎日見ます。

視聴覚資料はどの位の頻度で観ますか？

— 利用したことないです。

新聞はどの位の頻度で読みますか？

— 全く読みません。

資料の並び方はわかりやすいですか？

— わかりやすいです。

検索用パソコンは、どの位の頻度で利用しますか？リクエストしたい機能はありますか？

— 本を探すときは使っています。リクエストしたい機能はここ1週間で最も借りられた本ランキングですかね。

（補足：現在、四半期ごとのベストリーダーを展示していますが、貸出が多く、ほとんど棚に無い状態です）

お友達に読書が好きな方はいますか？いれば何人位？

— 10人くらいです。

館内の掲示は見ますか？

— ときどき見ます。

図書館でコンスタントに入手したい情報はありますか？

— …懸賞？

施設面（空調、照明など）や設備面（机、椅子、パソコンなど）で困ったことはありますか？

— ないです。いつも快適です。

図書館にいる時に困ったことはありますか？あれば、どんな事で困りましたか？

— ないです。

最後に、全体的な図書館に関する印象をお願いします。

— とても過ごしやすく、勉強や調べ物をするには最適な場所です。

積極的に参加頂いているだけあって、たいへん好意的かつリアル(!)に答えて頂きました。

西川さん、有難うございました。今後も貴重な意見をどんどんお聞かせ下さい。

OPAC（検索用パソコン）を使いこなそう！

蔵書検索用パソコンを気軽に使用頂いている風景が、よく見受けられるようになりました。ネット検索とほぼ同じ感覚で「キーワード検索」ができるようになったからでしょうか。ただ、カウンターから見てみると、そういった方々にも意外と知られていない使い方がある事を発見しました。今回は、そういった機能についてご紹介します。

ヒットした資料のリストを詳しく表示できます

下図はOPAC蔵書検索メニューの初期画面です。「キーワード検索」のフィールドには著者・書名など、種類を問わず入力できます。



例えば「NPO」とキーワードを入力すると下記のように表示されます。



255件の資料がヒットしました。

この中から、必要な本を探し出すために、効率的な方法を2種類ご紹介します。

1. 特定の著者や国別事情など、ある程度内容が具体的にイメージ出来ている場合

例：アメリカのNPO事情について探す


下図のように、先ほど入力したキーワード「NPO」に続けてスペースを入力し、「アメリカ」と入力します。




検索した結果、4件まで絞ることができました。

2. イメージが漠然としている場合

図書館では、図書は内容の主題ごとに並べられています。その場所へ行って、実際に図書を見比べてみましょう。

①目星をつけた書名の左横のチェックボックスか、左図の  マークで示す「全て選択」をクリックします。

②左図の  マークで示す「選択されたデータの詳細表示」をクリックします。



上図のように、本の所在や貸出状態が一覧できる詳細リストが表示されました。

その他の検索方法についても、カウンターへ気軽にご相談下さい。

図書館インフォメーション

◆特別展示「先生の別の顔、紹介します！」を開催しました

2008年10月20日(月)～11月21日(金)の期間、メディアセンター1階にて、先生方約100名の研究業績を展示し、データ収集に使用したデータベース「ReaD(研究開発総合支援ディレクトリ)」の紹介および本学教員著書の紹介を行いました。ご協力頂きました先生方をはじめとする関係者の皆様、誠に有難うございました。

◆2008年上四半期ベストセラー好評展示中です！

第1位は田村裕著「ホームレス中学生」(ワニブックス, 2007.9)でした。20位までを、館内各所に掲示しています。

◆2008上半期「学生選書コーナー」貸出ベスト20発表！

ベスト20を展示しています。好評につき、ほとんどが貸出中です。その他にも選書スタッフのコメントや内容紹介文を掲示していますので、一度見に来て下さい。

◆平成20年度上半期に寄贈された本学教員著書は下記の通りです。(50音順 敬称略)

※配架場所は「本学教員著書コーナー」です。貸出もできます。

【飯田耕二郎】『エスニック・ワールド』/ 山下清海編著. - 東京: 明石書店, 2008.4.

【長尾 和英】『人間形成のアイデア』/ 武安宥, 長尾和英編. - 改訂版. - 京都: 昭和堂, 2008.3.

【中津 孝司】『ロシアマネー日本上陸』/ 中津孝司著. - 東京: 創成社, 2008.4.

『勃発! エネルギー資源争奪戦』/ ダイヤモンド社編, 2008.7.

【西村多嘉子】『消費生活を考える』/ 西村多嘉子著. - 京都: 法律文化社, 2008.4.

『消費者問題』/ 呉世煌, 西村多嘉子編著; 安田憲司 [ほか] 執筆. - 東京: 慶應義塾大学出版会, 2005.10. - (消費経済学体系; 3).

『現代流通と消費経済』/ 西村多嘉子著. - 京都: 法律文化社, 1998.6.

【藤本 清一】『所得税入門の入門』/ 藤本清一著. - 東京: 税務研究会出版局, 2008.6.

『ビジネス簿記入門』/ 藤本清一, 林幸著. - 第3版. - 東京: 税務研究会出版局, 2007.4.

『わかりやすい所得税の確定申告』/ 藤本清一, 西教弘著; 平成20年3月申告用. - 東京: 税務研究会出版局, 2006.11.

開館案内

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

●は休館日です。(開館時間: 月～土 9:00～20:00)

上記以外にも臨時休館日を設定場合があります。

開館日程および時間は変更されることがあります。

詳細は学内掲示・モニター・ホームページ等でお知らせ致します。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第33号 平成20年11月30日 発行 大阪商業大学図書館
〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10 電話(06)6781-5280 FAX(06)6781-0089
e-mail: lib@oucow.daishodai.ac.jp ホームページアドレス: <http://www.lib.daishodai.ac.jp>

ISSN 1346-8928